みんなの文芸

俳句・短歌を募集

7日必着

作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名・電話番号を明記して企画財政課までお寄せください。
1人1句、1首に限ります。

俳句 榎本順江 選　投稿数 16 句

雨の午後本閉じたまま春炬燵　皆野　島　弘

(評)降り出した雨に、ゆっくり休養をと思い本を持ってこたつに。しかし暖かい所には睡魔が。本は開かれることなくしっかり休養の午後となりました。たまには雨も良きかなですね。二句目、厳しい寒さから、待ちに待った春をメロディー花火が呼び起こしてくれました。春の到来に心浮き立ちます。(森羅万象＝形ある一切の物事)三句目、盆地を見下ろす独立峰の武甲山。雪を着てそそり立つ姿は、神の住む霊山そのもので、寄り来る雲も山の景を引き立てています。美しい冬の武甲が秀句になりました。(朶＝花や雲の塊を数える言葉)

メロディー花火森羅万象春覚ます　皆野　根岸　詩子

そそり立つ雪の武甲や雲一朶　国神　鈴木　正文

根付きたるきぬさや埋(うず)め春の雪　三沢　眞下　杏子

古寺の枝垂桜や天と地と　三沢　新井　民子

紫木蓮風に吹かれて笑いけり　皆野　櫻井　早苗

自転車と並走してる春の風　皆野　引間　千鶴

花冷や能登に嫁ぎし友思ふ　皆野　村田ハツ代

啓蟄や置き去りとなる荒畑　国神　藤原マキ子

還暦春なって初めてわかること　皆野　石原　達也

単線の車窓より見る麦の秋　皆野　萩原　初惠

登り来て腰籠に満つ蕗のとう　三沢　新井　叶子

春眠や孫より先に夢ん中　皆野　花垣好比古

短　歌（投稿順）

みごとなる雪だるま二つ野に残し彼岸参りの子らは帰りぬ　三沢　眞下　杏子

天ぷらと冷たい蕎麦が良い季節春の野に出てふきのとう摘み　皆野　大澤　貴夫

亡き夫が丹精にした鉢植えにたっぷり水やり報告をする　下田野　新井　節子

祖父母等が昔を語った囲炉裏端思い出しては背中押さるる　皆野　村田ハツ代

恙が無く生きる幸せ娘や孫に感謝の日々を祈る朝夕　皆野　根岸　詩子

記念にと帰りし子等と寄り合いて写りし夫の穏やかな顔　皆野　萩原　初惠

初燕黄砂に紛れ舞ひ来る遠き異国の風を運びつ　皆野　打木　昭廣

生前の母に貰いしプリムラは庭に咲き満ち和ませくれる　下日野沢　浅見　豊子

やんわりの日射しあびつつ散歩する慈愛受くよなひとときの幸　国神　藤原マキ子

修験行者の法螺の音響く宝登山の火祭り行事斯くもおごそか　三沢　新井　叶子

枯草の中にちらほら蕗の薹苦みは春のアクセントかな　三沢　新井　民子

今年度隣組長めぐり来て垂髪(おかっぱ)の夫婦に四月始まる　皆野　引間　万亀

好き選び生まれてこれたわけじゃないでも大好きで生きてたいのサ　皆野　石原　達也